

- ① **公と民間のデータ連携をもとにした、国民の毎日を便利にする取り組み**（≒マイナンバー＋電子証明書を用いたマイナンバーカード）はぜひ強い推進力のもと、進めていただきたいです
 - 例えば私は、妊娠～出産というライフイベントにおいて、「アナログな手間の多さ（情報のばらつき＋多さ）」に絶望しました（次ページ参照）
 - 「**働きながら子育てする人**」を増やすなら、**平日日中も含めこの手間をかけるのは、なお難しい**。デジタル実装の更なる推進をぜひお願いしたい領域です
- ② 横展開のためのカタログをつくる際には、「自治体への導入実績」のみならず、「**すでに民間に普及しているよいサービス**」や、該当するものがない場合には「**人事制度改革をして、国が自らよいサービスをつくる**」ことにも目を向けてほしいです
- ③ また、カタログに掲載するサービスは、点での選択ではなく、その**領域の「体験」全体をベースに設計**をお願いします
 - 例えば、妊娠～出産前の時期において、
 - 母子手帳＋受診票＋40枚以上の紙での案内＋複数のスマホアプリを使うことはストレスになります（**論点①：体験全体としてどうあるべきか？**）
 - 出産後、出生届の提出～子育ての諸手続きにおいても、妊娠～出産時のデータ連携をしたいです（**論点②：前後の体験とどう繋いでいくべきか？**）
 - ポイントは、担当課を超え、官民を超え、「**データ連携**」をいかに進めるかにあると考えています
- ④ よいサービスは日々進化し変わっていくものなので、**カタログのアップデートも最初から仕組み化**することが欠かせないと考えています
 - **更新頻度**をあらかじめ設定する
 - 実際の**利用者の声を反映する**仕組みをつくる など

母子医療は、公-民間-医療のデータ連携を進めてほしい領域の一つであると感じています。

妊娠届を提出しに行っただけでも、これだけの資料をいただきました。

- 記入の上、提出が必要な情報
 - 確認の上、行動が必要な情報
- も多く、捨てるわけにはいきません。

一方で、この混沌とした情報の中では何をどの順番で行うべきかは一切わからず、

- 民間のスマホアプリを複数ダウンロードして
 - ネットに載っている情報を検索して
- 情報を網羅的に確認したのち、該当する紙を探し、類似の情報を、別の紙に何度も記入し
- 平日日中に区役所に提出に行く
 - 紛失しないよう保管しながら、全く同じ情報を記入した紙を、病院に毎度提出する
 - 一部の情報は手元のアプリで管理する必要がありました。

